IDBF World Dragon Boat Racing Championships 2025 in Germany

【シニア A 女子スモール】

キャプテン　石原佐江子（湘南龍舟 Paddlers）

■出場選手

Dawn Crawford（沖縄龍舟）、浅見明子（湘南龍舟）、池川麻実（湘南龍舟）、飯盛智美（湘南龍舟）、石原佐江子（湘南龍舟）、内山篤子（湘南龍舟）、金弘美（湘南龍舟）、倉橋美也子（湘南龍舟）、草地玲奈（関西龍舟）、佐見津麻希（関西龍舟）、橋本和実（湘南龍舟）、丸山春海（タイタム X）、村山美奈子（INO-G）　計 13 名

■成績

・2000m（7 月 15 日）　15 チーム中 15 位（12:16:298）
（上位 3 チームのタイム：　1-China 10:29:703,　2-Ukraine 10:31.279,　3-Czech Republic 10:39:773）

・200m（7 月 17 日）
　予選　　　　順位　15 チーム中 13 位（1.02.612）
　敗者復活戦　順位　11 チーム中 10 位（1.02.801）
（Grand Final のタイム：1-China 57.055,　2-Germany 57.393,　3-Ukraine 57,842）

・500m（7 月 19 日）
　予選　　　　順位　14 チーム中 13 位（2.42.260）
　敗者復活戦　順位　10 チーム中　9 位（2.41.404）
（Grand Final のタイム：1-China 2.23.737,　2-Ukraine 2.25.194,　3-Czech Republic 2.25.589）

■総括

２月から月に１回（土日）の合同練習を開始。その他の週末は所属チームで練習し、スケジュールがあうメンバーは集まって練習してきました。「各自の良いところを最大限に活かす」をモットーにし、パドル歴も経験値も漕ぎ方も違うメンバー同士が「互いの共通点を探る」日々でした。

一番強化した点は、スタート。そのためにキャッチを基本の基本から学び直し、毎回の動画撮影と練習後の検証に加え、撮影した動画を艇の上で確認し、その場で修正していくプロセスを繰り返し行ってきました。IDBF から Buk 艇を使用するアナウンスがあった時は、チャンピオン艇での経験しかないメンバーが多数いたため、すぐに「足置きが無い想定」での練習を開始しました。また、Buk 艇保有の関西龍舟さんが快く練習を受け入れてくださり、遠征合宿をメンバー全員で行いました。いつもとは違う海の波、不規則なうねりがあるコンディションでの練習は、パドリングに良い影響をもたらしました。

結果として、世界選手権の Buk スモール艇は足置きがありましたが、シート間の長さの違いで足置きに届かない小柄なメンバーもいました。しかし、慣れない艇による精神的な不安なくレースに臨むことができたのは十分な覚悟と準備をして臨んだ結果だと思いました。

どの種目もスタートは練習以上に良いスタートを切れましたが、世界と肩を並べられないのは、中盤か

らのフィジカル、スタミナ、水中スピードの差が明らかでした。明らかにわかっていながら、力をつけられなかったことは大いに反省すべき点です。
その一方で、最後の最後まで、細かいところまで修正点を考え、全員が諦めずに同じ認識でレースに臨むことができ、励ましあい、助け合い、鼓舞しあったこのメンバーでの出場は生涯の宝物となりました。

■最後に
今回の出場に際し、ご尽力いただいた方々、選手を推薦してくださった各チームの監督とメンバーの方々から多大なるサポートをいただきましたこと、心から御礼申し上げます。
また、世界選手権初出場のチームで、わからないことだらけでしたが、一から色々とご教示いただきました JDBA 関係者の皆様に御礼申し上げます。

今後、世界の強豪選手たちに近づくために、チームの枠組みを外したメンバーで、世界選手権のための強化トレーニングができる、準備期間が１年足らずではなく、他国のナショナルチーム同様に、２年単位でチーム作りに取り組んでいける仕組みが実現できることを願います。

以上